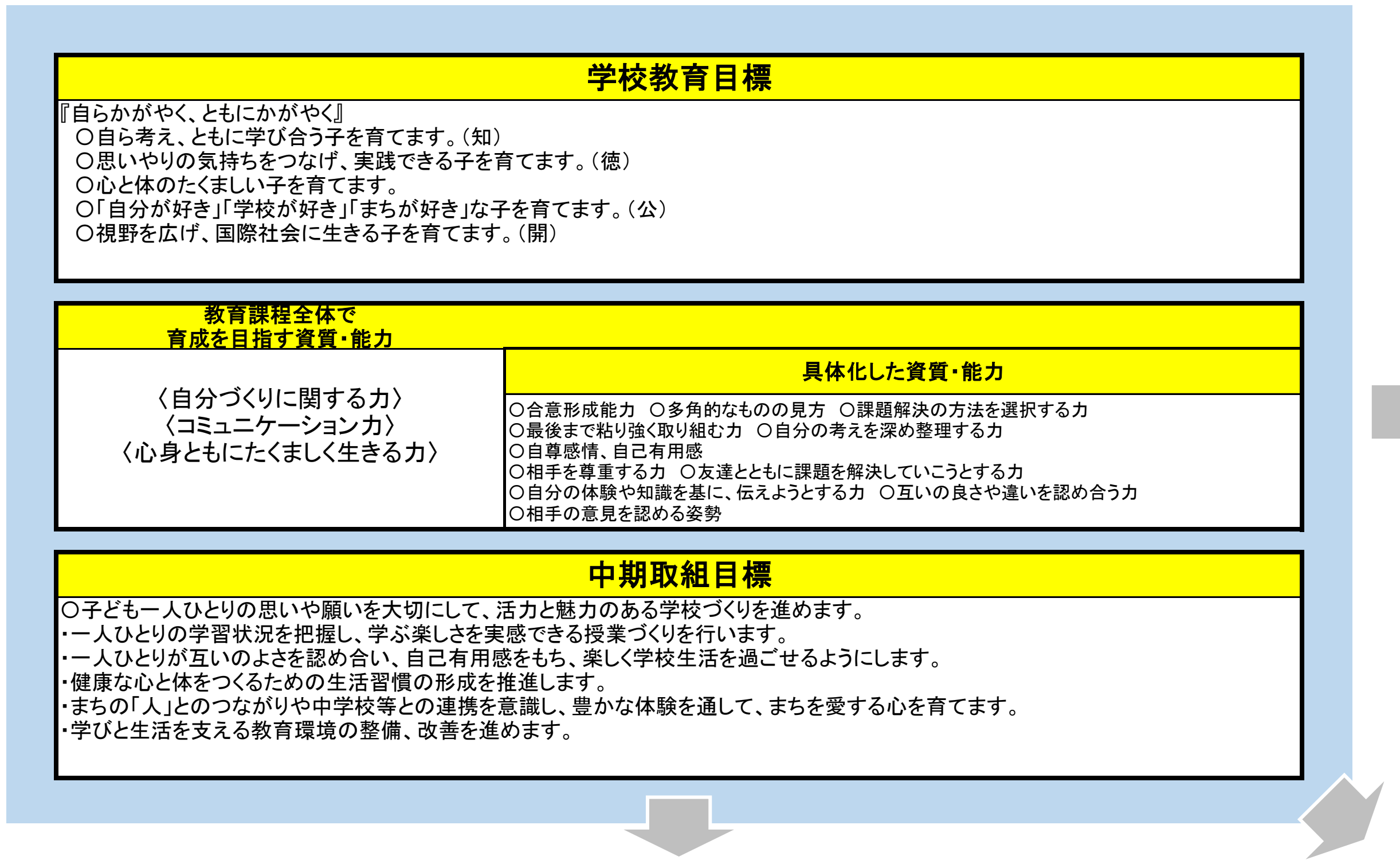




学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①児童がICTを効果的に活用しながら学習を楽しみ、主体的に取り組めるようにする。 ②重点研究テーマを『主体的に取り組む力』を育む授業～児童の言葉から始まり、学びと生活をつないでいく授業づくり』にし、算数科を中心に、児童の学びと生活が結びつくような授業づくりをしていく。
担当	学習・評価部会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
令和7年度の学力学習状況調査の結果から、本校の児童は学習意識と学力の関連性がとても強い傾向にあることが認められる。そこから、本校の児童には学習意欲の向上への取組が、学力向上に向けた大きな働きかけとなると考えられる。そのため、さらなるICTの効果的な活用をすることで、「できた、わかった」を積み重ね、学習意欲の向上を図ってきたい。

令和7年度

■ 学力 ■ 生活意欲 ■ 学習意欲

今年度の目標
○ICTを効果的に活用し、「できた、わかった」を積み重ね、学習意欲を高めていく。 ○児童の学びと生活が結びつく授業づくりをしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○学習の楽しさを実感できる授業を通して、「できた、わかった」を積み重ね、学習意欲を高めていく。 ・「できた・わかった」を積み重ねるために、学年の実態に合わせてICTの効果的な活用を図る。
下半期	○児童の学びと生活が結びつく授業づくりをしていく。 ・児童の思いから学習が始まるよう、材と出合わせたり、日常から学習を始めたりの授業を目指す。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳人権教育	①相手の気持ちや多様な考えを受け止め、自分の考えを広げていけるようにICT機器を適宜利用しながら、道徳教育の充実を図る。 ②いのちの学習を系統的に行うことを通して、自己を見つめる力を伸ばし、自他の命の尊さについて考えるようにする。③日々の生活や年間を通して行うペア活動、たてわり活動で他者とかかわる良さを味わえるようにする。④互いの思いを受け止め伝え合いながら、個を認めるような環境づくりや児童支援を行う。
担当	人権・学校安全部会

豊かな心に関わる本校の状況

(1)
・ペアやたてわり活動、総合的な学習などを通して、人と交流を楽しむ児童は増えてきている。一方で、仲間と活動することのよさ、助け合うことの大切さに気付くことについてはまだ課題がある。
・相手の気持ちや状況に気付いて行動しようとするのが苦手な児童がいる。
・特定の相手や場面での挨拶ができる児童は増えてるが、挨拶をすることの大切さや、挨拶を通してのコミュニケーションのよさを感じることができていない児童が多い。

(2)
・自分づくりパスポートを活用し、自分を見つめ、ふりかえられるようになってきている。
・多様な考えがあることは知っているが、受け入れることについては課題がある。
・生活「さ・し・す・せ・そ」を教室に掲示し、日常的に意識できるようにする。
・教師の声掛けによって、互いに木道略過ごすための意識をもつことができていく。

(3)
・「いのちの学習」を通して自他の命の尊さについて考えることができているが、自分事として日常や生活につながりきれいでいない。

今年度の目標
自分を見つめ、他者を思いやる心をもちながら、人と関わることのよさを味わい、進んで人とかがわろうとする心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・学習や当番、係、ペア活動などで、それぞれのよさを発揮できるような機会を設定する。 ・自分づくりパスポートを活用し、自分を見つめ、ふりかえる機会を多くもつ。 ・コミュニケーションとしてのあいさつの意義も含め、気持ちのよいあいさつについて、朝会などで話題にしたり、各学級で意識がもてるような働きかけをしたりする。 ・道徳の学習を通して、友達の考えにふれ、さまざまな考え方があることを知るができるようにする。 ・生活「さ・し・す・せ・そ」を教室に掲示し、日常的に意識できるようにする。 ・クラスでの当番や係活動、ペア活動などで、互いのよさを感じあえるような機会を多くもつ。 ・学年に応じた内容で計画的に「いのちの学習」を行い、授業後も折に触れ考えられるような支援を行う。
下半期	・学習や当番、係、ペア活動などで、それぞれのよさを発揮できるような機会を設定する。 ・自分づくりパスポートを活用し、自分を見つめ、ふりかえりながら次のめあてを考えられる機会を多くもつ。 ・コミュニケーションとしてのあいさつの意義も含め、気持ちのよいあいさつについて、朝会などで話題にしたり、各学級で意識がもてるような働きかけをしたりする。 ・生活「さ・し・す・せ・そ」を教室に掲示し、日常的に意識できるようにする。 ・学級での活動はもちろん、たてわり活動やペア活動の中でも、互いのよさや大切さを感じられる機会を多くもつ。 ・学年に応じた内容で計画的に「いのちの学習」を行い、授業後も折に触れ考えられるような支援を行う。 ・児童会を中心とした、気持ちのよいあいさつについての取組みを推進していく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康安全 体力向上教育	①年間を通して、栄養教諭や養護教諭などと連携し、食育や保健の授業、いのちの教育などを充実させる。自分自身の心と体の健康を継続的に心がけようとする態度を養う。②生活意識調査や新体力テストの結果を基に一人ひとりが自己の成果や課題を見つめ、学校全体として取り組むべき課題を分析する。それらを用いて、体育の授業や体力アップタイムを通して児童が体を動かす喜びや楽しさを味わうことができるようにする。
担当	情報・体力向上部会

健やかな体に関わる本校の状況

(1)食に関する児童の実態
令和7年度の生活意識調査の結果から、昨年に比べて改善は見られるが、まだ朝食を食べていない児童がいることが分かった。また、給食においても残食が多かったり、好き嫌いが激しかったりといった傾向がある。

令和7年度 生活意識調査の結果

(2)自己意識に関する児童の実態
令和7年度の生活意識調査の結果から、学年が上がるにつれ、自己肯定感が下がる傾向がある。また、挨拶や運動時間が少ないという自認があることも分かった。

令和7年度 生活意識調査の結果

(3)体力・運動能力に関する児童の実態
令和7年度の体力・運動能力調査の結果から、走力や筋力などが全国平均を下回ることが分かった。

令和7年度 体力・運動能力調査の結果

今年度の目標
○栄養教諭と協力して食育の学習を展開し、児童が「食」の大切さに気付いたり、給食をより好きになったりできるようにする。 ○養護教諭と協力して健康や命に関わる学習を展開し、自分や友達、生き物の命を大切にしようとする心情を育てる。 ○走力や筋力を高める活動を体育の学習や、体育委員会が提案する活動に取り入れ、児童が体を動かす楽しさや、体力向上の喜びを味わうことができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○特別活動の学習の中で、「食育」に関する指導を栄養教諭と協力して行う。学習内容は「食に関する知識不足」を補うものを中心に行う。その他、生活科や総合、社会科や理科などの学習において、食に関連する体験を増やしたり、給食指導の中で食事のマナーや作法などを身につけたりできるようにする。 ○特別活動の学習の中で、健康や命に関する指導を養護教諭と協力して行う。学習内容は各学年の保健や道徳の学習とつなげることができるように工夫する。学習の中で、自己肯定感を高め、かけがえのない自分の存在や生きていることのすばらしさに気付けるようにし、また、他者を大切にする心情も育む。 ○体育の学習の時間や体育委員会が企画する活動の中で、「走力」や「筋力」を高める活動（体づくりの運動・縄跳び・マラソンなど）を取り入れる。【体力アップの期間を設定し、学年ごとに体育委員会が企画した運動に取り組む。】 ○学校保健委員会で、全校児童が健康に対する意識を高め、自ら進んで健康な生活をおくるための方法について考える機会を設ける。 ○代表委員会の中で、気持ちの良い挨拶が増える活動を計画・実施していく。
下半期	